

第一生命経済研レポートテーマ（2004年4月～5月）

2004年4月号 (通巻85号)	<ul style="list-style-type: none"> ・時評 ・今月の内外景気 ・今月の金融マーケット ・経済トレンド ・けいざい・かわら版 ・産業トレンド ・今月の注目セクター ・今月の一語 	<p>エコノミストは信用できるか 日本経済～潜んでいる所得格差～ 米国経済～家計の債務返済負担は安定～ 日米経済の現状と6ヶ月後の方向性 国内～勝つしかない為替介入政策～ 海外～利上げ観測が徐々に後ズレする米国～ 2004・2005年度 日米経済見通し 民間シンクタンク・調査機関の日本経済見通し～景気の持続性で見方が分かれる～ 不動産市場の新たな潮流 通信・機械・民生用電機・医薬品 「国債管理政策」</p>
2004年5月号 (通巻86号)	<ul style="list-style-type: none"> ・時評 ・今月の内外景気 ・今月の金融マーケット ・経済トレンド ・けいざい・かわら版 ・よくわかる経済指標 ・よくわかる年金 ・産業トレンド ・セクター分析 	<p>長期トレンドは上向くか、正念場迎える日本経済 日本経済～日銀短観に見る格差縮小の阻害要因～ 米国経済～商品市況の急騰も消費者物価は安定推移～ 日米経済の現状と6ヶ月後の方向性 世界的な資金還流システムからみた日本の動き 少子高齢化の影響を考える～諸外国の経験から～ 3月景気ウォッチャー調査 ～ウォッチャーの声にも明るさが広がっています～ 「GDP」 公的年金の基本と2004年制度改正（その1） デジタルAV製品における競争優位の決定要因 産業別利益動向</p>

編集後記

6月 衣替え、父の日、夏至、梅雨…。平均降雨量約181mm（東京都）と一年の中で9・10月の台風シーズンと並んで雨が多く、蒸し暑い日々が続くうっとおしい季節。古来、旧暦6月の呼び名は「水無（みな）月」。日本中の神様が出雲大社に行ってしまうので神様がいなくなるという意味の「神無（かんな）月＝10月」と同じように、6月も大量の雨が降ってもう空には水がなくなってしまったので「水無（水がない）月」と呼ぶとばかり思っていたが、どうもこれは俗説らしい。旧暦と現行暦とではおよそ1ヶ月のズレがあるため、旧暦6月は今の7月にあたり、酷暑の時期になる。「水無月」は、文字通り梅雨も終わって暑さが厳しいため、水も枯れ尽きるところからきたという解釈が多いらしいが、他方、田植えも済んで田に水を張る月「水月（みなづき）」だとする説や、田植えという一大仕事も終わって農作業をやり尽したというところから「皆尽月（みなつきづき）」だとする説など諸説があるようだ。

ところで、6月と聞いてすぐに思い浮かぶのは“June Bride”である。なぜ、6月だけを特別に“June Bride”と表すのだろうか。これは、ギリシャ神話に出てくる女性の結婚と幸せの守護神である Juno が6月（June）の名前になっていることから、「6月に結婚する女性には特別な祝福がある」と言い伝えられるようになったとか。実際の婚姻件数は厚生労働省の統計でみる限り特に6月が多いわけではないが、披露宴会場や新婚旅行の予約が早くから入るとい話からも、やはり6月という月は特別のようだ。バブル崩壊から早15年、景気の長期低落傾向が続く中で、結婚式・披露宴もジミ婚化が進んできたが、ここ2～3年は1組あたり平均500～600万円にも達する結婚費用総額も反転し始めているらしい。回復の兆しがみえてきた個人消費に対しても守護神 Juno の祝福があるとよいのだが…。

（N・I）